

北本市

活 動 名

ナイトスクール

中 学 校 数	4 校	実 施 教 室 数	2 教室
対 象 学 校 数	4 校	対 象 学 年	3 学年
平 均 年 間 開 催 日 数	2 0 日	参 加 人 数 (1 日 平 均)	3 9 人
活 動 場 所	北本市文化センター 東部公民館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	1 5 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員 O B、地域住民、教員

活 動 紹 介

活 動 内 容

- 市内全ての中学3年生の希望者を対象とし、北本市文化センターおよび東部公民館を会場に、6月から2月の土曜日に計20回実施した。
- 学習時間は2時間程度、英語、数学の基礎的・基本的な内容を中心として学習支援を行った。

実施にあたっての工夫

- 開始時刻を13時から17時に変更した。
(平成30年度の課題として、開始時間が早いために欠席する生徒がいたため)
- 講師の人数を充実させ、個別指導ができるようにした。
- 基礎・基本の定着を図るために県作成の「学力向上ワークシート」(コバトン問題集)や、入試対策の問題集を活用した。

事業を実施しての成果

- 個の課題に対してきめ細かく支援することができ、生徒の学習意欲が高まった。
- 基礎学力の定着を図ることができた。
- 生徒が自ら進んで質問するなど、安心して課題に取り組むことができた。
- 学習支援員と教員が事前に綿密に打合せを行い、参加生徒に関する情報を共有した上で、具体的な指導方法を検討するなど、学校と地域が連携した組織的な学力向上の取組ができた。



【個別指導の様子】

講師の人数を確保したため、きめ細かな学習支援をすることができた。



【学習意欲の高まり】

生徒は、受け身ではなく、講師を積極的に活用し、課題に取り組む姿があった。

越 生 町

活 動 名

越生中学校学力アップ教室

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	1 教室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	1 7 日	参加人数（1 日平均）	6 0 人
活 動 場 所	中学校教室	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	2 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教育委員会職員

活 動 紹 介

活 動 内 容	●越生中学校全学年を対象とし、夏休み期間中に補充学習を3年生向けに4日間、1・2年生向けに3日間実施した。また、定期テスト前には質問学習の時間を設け学習支援を実施した。 ●学習内容は、主に教科書を中心とした学習プリントを作成して実施し、個別に丁寧な指導を心がけた。
実施にあたっての工夫	●補充学習では、生徒の学力に合わせ、漢字や英単語の書き取り、計算問題等を繰り返し行う基礎学力定着を目指すグループと、応用力の向上を目指すグループに分けて指導を行った。 ●事前に教員が生徒一人一人のつまずきを分析したうえで、支援に当たる臨時講師と打合せを密に行い、指導に関する情報と具体的な指導方法を共有した。 ●「コバトン問題集」や「復習シート」も教材として活用し、一人一人の課題にあわせて指導を進めた。
事業を実施しての成果	●夏休み中の補充学習は、長期休業中に途切れがちな学習習慣を継続させ、基礎学力の定着に役立っている。 ●補充学習で学んだことを長期休業明けの前期期末テストにおいて出題したところ、補充学習に参加した生徒の正答率が改善された。 ●夏季休業中は、教員に加えて臨時講師が指導に加わったことで、参加した生徒により丁寧な個別指導を行うことができた。 ●参加した生徒の感想 「いろいろな先生が教えてくれることで、いろいろな説明を聞くことができ自分に合った方法を選ぶことができた。」 「コバトン問題集には、基礎的な問題だけでなく応用問題もあって、普段の授業ではできない難しい問題に挑戦できてよかった。」



【 補充学習の様子 】

一人一人の課題に合わせて指導を行った。



【 質問学習の様子 】

丁寧な解説を行い、基礎学力の定着を図った。

熊谷市

活動名

学習支援充実くまなびスクール

中学校数	16校	実施教室数	16教室
対象学校数	16校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	24日	参加人数(1日平均)	246人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	16人
ボランティア数	54人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許所有者、学生

活動紹介

活動内容	●教員OBや教員免許状所有者、学生等の有償ボランティアによる、生徒一人一人に対するきめ細かな指導をとおして、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。 ●市内全ての中学生に参加を呼びかけ、参加を希望した生徒を対象に、市内の中学校(16校)を会場に年間30回以内で週1回程度(1回2時間)実施した。 ●学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で、一部講義形式も取り入れた。
実施にあたっての工夫	●会場は各中学校とし、実施日については各中学校が設定した。このことにより、学校の実情に応じた運営ができた。 ●学習支援員を対象とした研修を年間2回実施し、それぞれの指導力向上を図った。 ●市内の全生徒に配布してある「熊谷市学力向上テキスト」(熊谷市教育委員会作成)を各学習支援員に配布し、テキストとして活用した。 ●市内にある大学の教職課程専攻の学生に「くまなびスクール」について説明をする機会を設けたことで、学生の学習支援員の確保につながった。
事業を実施しての成果	●経済的な理由等の限定をかけずに、市内全ての中学生に参加を呼びかけたため、学習の機会を保障し、個に応じたきめ細かな指導を行うことができ、市内の中学生全体の学力の底上げにつながった。全国学力・学習状況調査の結果も良好であり、特に、参加生徒が多い学校の結果が良好である。 ●埼玉県学力・学習状況調査生徒質問紙調査「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」という質問に対して、「2時間以上」と回答した生徒が、中学2・3年生ともに埼玉県よりおよそ8ポイント程度高い。また、「学校の授業以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」という質問に対しても「1時間以上」と回答した生徒が中学2年生ではおよそ5ポイント程度、中学校3年生ではおよそ9ポイント程度埼玉県より高い。くまなびスクールにより、家庭学習の習慣が着実に定着してきている。



【個別支援の様子】

生徒のつまずきに対して、学習支援ボランティアが個別に解説したり、どこから分からなくなっているのかつまずきのもとを一緒に振り返ったりして、生徒のやる気をアップさせるようにした。



【市で作成した学力向上テキスト】

授業の予習・復習や3年間の学習内容の振り返りなど生徒の自学・自習に活用できるように市で作成した。

秩父市

活動名

チチブアフタースクール・スタディ～夜勉～

中学校数	8校	実施教室数	3教室
対象学校数	8校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	10日	参加人数（1日平均）	39人
活動場所	秩父市歴史文化伝承館	コーディネーター数	2人
ボランティア数	27人	ボランティアの属性	教員OB、大学生、地域住民

活動紹介

活動内容	●市内全ての中学生を対象とし、7月から12月にかけて、年間10日、18:30～20:00までの1時間30分、秩父市歴史文化伝承館で学習支援を実施した。 ●生徒は各自、自分が学習する問題集等を持参し、その取組に対して学習ボランティアが支援した。 ●希望する生徒には、コーディネーターが作成した学習プリントを配布し、その解説も行った。
実施にあたっての工夫	●学校の学習指導に併せ、地域人材による学習支援の場を設けることで、生徒の更なる学力向上を図ることを目的とした。 ●学習ボランティアを地元に住む教員OBや大学生、高校生等をお願いした。また、市報等でも公募し、随時募集を行った。 ●講座当日の会場運営や学習ボランティアの配置は、アフタースクールスタディコーディネーターが行った。 ●昨年度は2会場で開催したが、日によっては学習ボランティアの参加人数が少なく、生徒への支援が十分に行えない場面があった。今年度は1会場にしたことで、各教室に常に3～4人の学習ボランティアの方々がおり、きめ細かな支援を実施できた。
事業を実施しての成果	●学習ボランティアは、本講座では親しみを込めて「夜勉先生」と呼ばれており、「夜勉先生」の熱心な指導や温かい声かけで、教室が安心して学習できる場となった。 ●最終日の生徒対象のアンケートで、「夜勉において、自分自身の学習の分からないところなどが解決できましたか？」「夜勉で質問したことについて、学習が理解できましたか？」の問いに対して100%の生徒が「できた」と回答した。 ●「夜勉先生」には本年度の教育実習生も含まれており、本人にとっても貴重な経験となった。 ●高齢の「夜勉先生」からも「中学生に教えるのは自分の生きがいである。」との声が寄せられており、家庭・地域が一体となった事業となった。



【開講式の様子】

学生から社会人、退職教員と様々な年代の方々が夜勉先生として活動していただいた。



【学習の様子】

基本的には自主学習を行い、質問がある生徒の支援を「夜勉先生」が行った。

深谷市

活動名

ステップアップレッスン

中学校数	10校	実施教室数	10教室
対象学校数	10校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	90日	参加人数(1日平均)	180人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	10人
ボランティア数	38人	ボランティアの属性	教員OB、大学生

活動紹介

活動内容

- 学習に対して不安を持っている生徒や、更に自分の力を伸ばしていきたいと思っている生徒を対象に、国語・数学・英語・理科・社会について補習学習を実施した。
- 特に、数学・理科については基礎的・基本的なプリントを中心としながら、応用までの補習学習を実施した。
- 1・2年生は毎週木曜日の放課後と月2回土曜日に学年別で1時間程度実施した。数学は基礎コースと応用コースから生徒に選択させ、生徒からの質問に対する解説を実施した。理科は試験前に講義形式で総復習を実施した。
- 3年生は毎週月曜日の放課後と月2回土曜日に1時間程度(希望者は3時間)実施した。数学・理科については講義のほか、質問に対する解説を実施した。
- 夏・冬休みにも、学年別(1～3年生)に実施した。
- 各コーディネーターは普段の学校の授業に支援という形で参加し、各学年の学習内容や参加者の教室での実態を把握するとともに、担当教師と打ち合わせを密に行うなどして、レッスンでの指導方法を検討した。

実施にあたっての工夫

- 定期テストを目標として学習することにより、学ぶ意欲を高めることに努めた。
- 学力向上には継続して学習することが必要である。学習に対して不安や諦め感を持っている生徒に、継続して学習に取り組ませるためには、「自分でもできる」ことを実感→「自分に自信を持つ」→「自ら学ぶ」というサイクルにつながるよう努めた。具体的には、以下のような取組を実施した。
- ①参加者の多くは褒められる場面が少ないため、褒める機会を増やし、「分かる」「できる」という気持ちを大切に支援を行った。
- ②通常のプリント学習も生徒の実態に合わせた内容で作成・選択した。
- ③試験内容を総復習できる講義形式の学習(理科)を実施した。
- ④黒板の前に出て問題を複数人で同時に解く取組を実施した。
- ⑤複数の学習支援員を配置できる場合は、支援員間で役割分担(採点と解説の担当、質問対応や応用への対応する担当)を行い、きめ細かく支援した。

事業を実施しての成果

- 大多数の参加者は、学習に対して意欲的に取り組めるようになった。
- 定期テストの結果が、大幅に上がった生徒や、数学や理科以外の教科でも成績が伸びた生徒が出てきた。
- 学習支援員が学校の授業での支援を実施するなかで、ステップアップレッスン参加者はもちろん、参加者以外の生徒からの質問も増え、授業に活気があふれてきた。



【自ら説明を始めた生徒】

自信が出てきたことで、黒板で友達や先生に解き方の説明を生き生きとしている。



【授業の様子】

採点と解説をひとり一人に分かるまで行う。生徒も納得できるまで聞きにくる。

長 瀬 町

活 動 名

チャレンジ土曜セミナー

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	1 教室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	3 学年
平 均 年 間 開 催 日 数	1 0 日	参 加 人 数 (1 日 平 均)	1 5 人
活 動 場 所	公 民 館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	2 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾 講 師

活 動 紹 介

活 動 内 容	●対象 長瀬中学校に在籍する中学3年生のうち、学習に苦手意識のある生徒 ●実施日時と回数 11月から2月までの土曜日に10回、各回2時間程度実施 ●内容 高校入試を目指した基礎問題(数学・英語) ●指導者 学習塾講師1人、講師補助1人
実施にあつての工夫	●開室場所は、生徒が自力で通室のできる中学校近くの公民館とした。 ●全体指導で基礎的な内容の確認を行い、指導者2名が机間指導を行うことで、個別に質問できる時間を設けた。 ●指導者は、休憩中に生徒と簡単な英語でのコミュニケーションをとるなど、学習時間以外においても積極的に交流を図った。 ●指導者は、高校入試に向けての心構えや反復学習の重要性を指導し、学習への意識改善を図った。
事業を実施しての成果	●学習に苦手意識のある生徒を対象としていたが、回が進むにつれ生徒が手を挙げて質問するなど、学習意欲の向上がみられた。 ●全体指導で自己の課題を発見し、個別指導で解決に向けた支援を行う事で、一人一人の基礎的な内容の理解が深まった。 ●基礎問題を重点的に学ぶことで、自力で解答を導き出す達成感を体験し、学習への苦手意識を払拭するきっかけづくりとすることができた。 ●参加生徒の感想より ・「勉強する時間が増えた。学習に対して、積極的になった。」 ・「難しい問題だけでなく、基礎的な問題から確実にやっていたいと思いました。」 ・「テストでは基礎問題がたくさん解けるようになって楽しかったです。」



【全体指導による様子】

単元の復習を通し、基礎的な内容についての自己の理解度を確認する。



【講師2人による個別指導】

指導者が個別に質問を受け、自力で解決するための支援を行う。

小鹿野町

活 動 名

中学生未来塾

中 学 校 数	1 校	実 施 教 室 数	各教科 2 教室 計 6 教室
対 象 学 校 数	1 校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	1 5 日	参加人数（1 日平均）	6 5 人
活 動 場 所	小鹿野文化センター	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	1 7 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾講師、教員 O B

活 動 紹 介

活 動 内 容

- 中学1年生から3年生を対象とし、第2、第4土曜日の午前中に、民間の塾講師や教員OBにより、英語、国語、数学の学習講座を実施。
- 少人数制によるきめ細かな学習指導を行う。

実施にあたっての工夫

- 英語、国語、数学それぞれ①基礎・基本コース②応用・発展コースの各教科2コース、計6コースで実施。生徒の個々の学習進度に合わせて、少人数できめ細やかな指導を行っている。（習熟度別指導）
- 民間の塾講師や教員OBに協力をいただき、地域と一体となった教育活動の支援を行っている。
- 遠距離の生徒も参加できるよう、開催日にはスクールバスを運行。

事業を実施しての成果

- 生徒の個々の学習進度に合わせて、少人数できめ細かな指導を行い、基礎的な学力や学習意欲を高めることができた。
- この事業をととして、生徒の学習習慣の確立に向けて地域全体で支援するきっかけづくりになっている。



【中学生未来塾開校式】

開校式の様子。開校式後に、第1回目の中学生未来塾がスタートしました。



【英語教室の様子】

少人数制のきめ細やかな指導を行っています。

上 里 町

活 動 名

上里町中学生学力アップ教室

中 学 校 数	2 校	実 施 教 室 数	2 教室
対 象 学 校 数	2 校	対 象 学 年	3 学年
平 均 年 間 開 催 日 数	6 2 日	参加人数（1 日平均）	4 0 人
活 動 場 所	上里町中央公民館	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	1 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	9 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	教員 O B、大学生

活 動 紹 介

活 動 内 容	●町内中学校3年生を対象とし、7月から2月にかけて、週2回（テスト前には週3回）、放課後の2時間程度、上里町中央公民館で5教科を中心とした学習支援を実施した。 ●町内には中学校が2校あることから、中学校ごとに行っている。 ●教科は5教科（国語・数学・英語・理科・社会）で、生徒がその中からその日に行うものを自身で決め、教材を持参し、学校の宿題及び学校での学習に関する予習や復習を行い、分からないところについては、学習支援員に質問していくようにした。
実施にあたっての工夫	●教室開始日を、生徒（中学3年生）が参加しやすいよう、運動部活動が終了した7月に設定した。 ●開催場所を、町の中央に位置する中央公民館にして、生徒が通いやすくした。 ●事前に参加する保護者のメールアドレスを登録し、緊急時等の連絡として活用した。 ●毎回教室を開催する前に学習支援員打合会を実施し、生徒の様子や指導方法の確認等を行った。 ●「自力で家庭学習に取り組める力を育てる」をベースとして、自力解決をしながら、分からないところを聞く態度を養う中で、学習の仕方を学ばせ、「これが分かった」と実感できるような支援を行った。 ●教科ごとの時間割は設けず、5教科のうち、各自が勉強したい教科を持参させて個に対応した支援を行った。
事業を実施しての成果	●本年度で「上里町中学生学力アップ教室」5年目となり、昨年に引き続き定員数の40名の生徒が参加している。生徒・保護者の事業への認知度と有効性の認識が高まってきている。 ●上里町で取り組んでいる「学び合い学習」を基本に、学力アップ教室でもわからないところは互いに聞き合い、主体的に学習を進める力がついている。 ●保護者アンケートから、学力アップ教室に参加した生徒の約8割が学習への意欲が高まったと答えている。また、約9割の生徒が家庭学習の取組への良い変化が見られたと答えていることから、事業の効果がみられる。 ●今後は、保護者アンケート結果や学力アップ教室の課題を詳細に分析し、「学力」「学習意欲」がさらに向上するよう改善していく。



【学習の様子】

生徒の質問に対して学習支援員が丁寧に解説することで自力解決への意欲を高めている。



【学習の様子】

学習支援員とともに学ぶ仲間と「学び合い学習」を積極的に取り組んでいる。

寄 居 町

活 動 名

より・E土曜塾

中 学 校 数	3 校	実 施 教 室 数	1 教室
対 象 学 校 数	3 校	対 象 学 年	3 学年
平 均 年 間 開 催 日 数	4 0 日	参 加 人 数 (1 日 平 均)	7 0 人
活 動 場 所	寄居町役場	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	2 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	1 2 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	塾講師

活 動 紹 介

活 動 内 容

- (株)トライグループに業務を委託して、「より・E土曜塾」を実施した。
- 「春塾」(4月に4回)、「定期テスト対策講座」(5・6月に8回)、「進路対策講座」(7月から2月に28回)の3回に分け、全40回実施した。
- 中学校3年生を対象とし、土曜日または日曜日に週1回、国語、数学、英語各50分ずつの授業を行った。
- 習熟度別の少人数グループ(2～6人)に講師1人を配置し、きめ細かい個別指導を行った。
- 生徒・保護者対象の受験対策セミナーや個人面談を行い、受験対策への助言や相談を行った。
- 「英検対策講座」として、中学校2・3年生を対象に、1回50分の英検対策の授業を5回ずつ実施した。

実施にあたっての工夫

- 「春塾」、「定期テスト対策講座」、「進路対策講座」の3回に分けて生徒を募集した。「春塾」では2年生までの復習を行い、3年生の学習のスタートをスムーズにさせるようにした。「定期テスト対策講座」では定期テストに向けて、各中学校のテスト範囲に応じて授業を実施した。「進路対策講座」は3年生の部活動が終わり、受験に向けて意識が高まってくる夏季休業中から開始することで、より多くの生徒が参加できるようにした。
- 家庭でも委託業者が提供しているWebサイトを活用し学習できるようにした。
- 受験対策セミナーや個人面談を通して高校受験対策の助言をしたり相談に応じたりし、生徒が高校受験に向け、自分に合った勉強方法を身に付けることができるようにした。
- 「英検対策講座」を「より・E土曜塾」と同日開催し、英検に多くの生徒が合格できるようにした。

事業を実施しての成果

- 習熟度別の少人数グループにより実態にあった授業が展開されているので、「分かった。できるようになった。」という声が生徒たちから多く聞かれた。
- 回を重ねるごとに生徒と講師との人間関係も構築され、生徒が気軽に質問をし、自分の苦手な部分を克服している姿が見られた。
- 「春塾」、「定期テスト対策講座」、「進路対策講座」の3回に分けて参加者を募集したことで徐々に参加者が増えた。
- 7、10、12月の3回テストを行い、学力の伸びを確認することができた。
- 「定期テスト対策講座」では、各学校のテスト範囲に応じて、苦手な部分を個々に対応したため、自信をもってテストに臨むことができた。
- 英検対策講座に多くの生徒が参加し、英検の合格者数も増えた。



【「進路対策講座」の学習の様子】

少人数グループでのきめ細かい個別指導を行い、生徒の理解を深め、学習意欲の向上につなげている。



【「英検対策講座」の学習の様子】

受験する級ごとにグループを分けて英検対策の授業を行い、英検合格をめざして学習している。

加 須 市

活 動 名

加須まなび Time

中 学 校 数	8 校	実 施 教 室 数	5 教室
対 象 学 校 数	8 校	対 象 学 年	全学年
平 均 年 間 開 催 日 数	4 0 日	参 加 人 数 (1 日 平 均)	2 0 人
活 動 場 所	市内各公民館等	コ ー デ ィ ネ ー タ ー 数	5 人
ボ ラ ン テ ィ ア 数	1 4 人	ボ ラ ン テ ィ ア の 属 性	大学生

活 動 紹 介

活 動 内 容	●市立中学校に通学する生徒(希望者)を対象とし、5月から3月にかけて、毎週1回(土曜日または日曜日)、2時間実施する。 ●学習内容は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科を中心に、個別の課題に沿った学習を実施する。
実施にあたっての工夫	●中学生には、小学校6年生の3月から事前に広報し、加須まなび Time の募集を促している。 ●会場は、市内の公民館やコミュニティセンターを活用して、学校や教員に負担がかからないように配慮している。 ●市内5会場に教室を設置し、市内のどの中学校区に居住していても通いやすいように配慮している。 ●「個々の学力の定着」、「家庭学習の時間の確保」の実現を図るため、生徒が自分の学習したいことを好きのように学習できるよう、自主学習の形態を採用し、必要に応じて学習サポーターに個別指導をしていただいている。
事業を実施しての成果	●令和元年度埼玉県学力・学習状況調査の結果から、加須まなび Time に参加している生徒は参加していない生徒と比べて、中学2年生(中1→中2)の国語と中学3年生(中2→中3)の数学・英語において学力の伸びが大きかった。 ●「自分から勉強する時間をつくるのが苦手なので参加しているが、集中して学習できるので助かっている。」「分からないところがあると、先生がすぐに教えてくれるので、勉強が分かるようになってきた。」という参加者の感想や、「家庭でも学習時間が増えた」という保護者の声があり、参加生徒一人一人の学習に対する自主性も高まった。



【全体の学習の様子】

一人一人が自ら決めた課題について黙々と学習に取り組んでいる。



【個別指導】

生徒の質問に対し、わかるようになるまで丁寧に指導している。

久喜市

活動名

くき本樹塾

中学校数	11校	実施教室数	11教室
対象学校数	11校	対象学年	全学年
平均年間開催日数	20日	参加人数（1日平均）	150人
活動場所	各中学校教室	コーディネーター数	9人
ボランティア数	33人	ボランティアの属性	教員OB、教員免許保有者、大学生

活動紹介

活動内容

- 市内の全中学校を対象とし、原則6月から2月にかけて、週1回、2時間程度を目安に、各中学校の教室で国語・社会・数学・理科・英語の問題集やコーディネーターの自作ワークシート等を活用し、個別の学習支援を実施した。
- 自主学習を主な活動にしているが、生徒の様子によって、コーディネーターの判断で一斉指導等も実施した。

実施にあたっての工夫

- 学校運営協議会からの推薦を受けた方をコーディネーターとすることで、学校との連携を密にし、情報共有を行った。
- これにより生徒一人一人の実態に合った学習支援を行えるとともに、中間・期末テストの範囲を把握した上で効果的な支援に当たることができた。
- 一部の学校では、くき本樹塾に教員が参加し、学習支援員をサポートする取組を実施した。この取組を通じて、生徒への支援が充実するとともに、教員にとっては本樹塾の活動状況や塾での生徒の様子を把握することができ、日頃の授業での指導等につなげることができた。

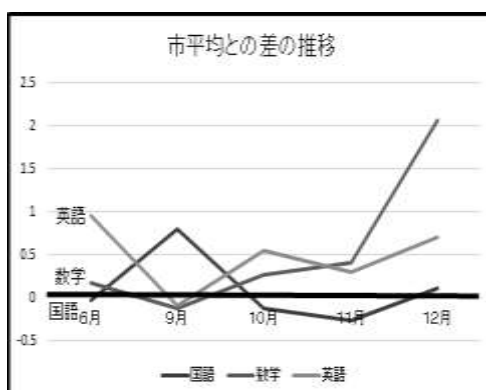
事業を実施しての成果

- 埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの変容を学力の伸びと捉えたと仮定したとき、埼玉県学力・学習状況調査と同様の性質を持ち、6月～12月まで毎月実施している久喜市独自の学力調査「久喜市ステップアップテスト」の結果から、本事業参加生徒は参加していない生徒と比較して、学力の伸びが0.6レベル大きかった。
- 参加生徒の意識調査から、本事業に参加したことで、学習内容を理解することができたと回答した生徒の割合が90%を超える結果であった。
- 参加生徒の感想として以下のようなものがあった。
 - ・「全然頭に入らなかった問題が、教えてもらいできるようになって嬉しかった。」
 - ・「今日の課題や数学のワークで分からないところを、分かりやすく教えてもらい、すごく満足した。」
 - ・「今日分からないところがたくさんあったが、支援員さんや友達との話から、内容を少し理解することができた。」



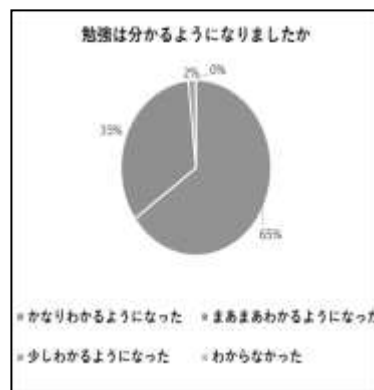
【学習の様子】

ボランティアによる丁寧な個別支援により、分かる喜びを味わい、学習意欲や学力の向上に繋がっている。



【久喜市ステップアップテストでの変容】

くき本樹塾の参加生徒の学力が、徐々に高まっていることが分かる。



【参加生徒意識調査】

90%以上の生徒が、「わかるようになった。」と回答している。